

## 令和6年度鴨川市立国保病院経営強化プラン実施状況評価表

### 【総括】

病棟は、地域包括ケア病床 60 床、医療療養病床 10 床、合計 70 床で運営した。

地域包括ケア病床は 10 対 1 の看護師配置を継続し、看護体制の充実を図った。

入院患者数は、令和5年度との比較において 1,015 人、目標値との比較において 2,957 人、それぞれ下回っているが、入院調整、看護師配置の見直しにより地域包括ケア病床のみの稼働としたことが主な要因である。

外来患者数は、整形外科、発熱外来等の受診者数が減少し、内科、小児科、眼科、歯科等の受診者数が増加し、令和5年度との比較において 1,182 人、目標値との比較において 1,233 人、それぞれ上回った。

訪問診療は、令和5年度との比較において 2,346 人、目標値との比較において 1,699 人、それぞれ上回り、訪問看護は、令和5年度との比較において 527 人上回ったが、目標値との比較において 521 人下回った。

これら訪問診療、訪問看護等の在宅部門について、公共交通機関が乏しく、高齢化の著しい当地域において重要な取組であり、地域医療を担う事業として引き続き推進していく必要がある。

役割・機能の最適化と連携の強化については、地域包括ケア病床の看護体制の充実を継続することにより、地域包括ケアシステムの機能の充実を図った。また、高度急性期病院等、在宅からの患者及び救急患者の受入れを行った。

医師・看護師等の確保と働き方改革について、医師・看護師等の確保に努めるとともに、千葉大学、旭中央病院の研修医の受入れ、東京大学、千葉大学、自治医科大学、亀田医療大学等の学生の実習の受入れを行い、将来的な医師・看護師等の確保につながるよう努めた。

経営形態の見直しについては、現状の経営形態の中で経営改善に努めた。

新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組みについては、新型コロナ患者の入院を受け入れるとともに、引き続き発熱外来を開設した。また、感染防護具等の必要な備品の備蓄を行うとともに、感染症法に基づく千葉県との医療措置協定を締結した。

施設・設備の整備について、必要性を考慮しながら、医療機器の更新等を行った。

経営の効率化について、収益の確保と費用の節減のための各種取組を行った。

病院事業収益は、令和5年度との比較において、入院収益が 9,558,095 円、外来収益が 19,890,346 円、それぞれ増加したものの他会計負担金が 36,294,000 円減少したことにより 1,315,282 円減少した。

一方で病院事業費用は、令和5年度との比較において、人事院勧告及び千葉県人事委員会勧告に準じた給与改定、会計年度任用職員に勤勉手当を支給する制度改正等により給与費が 83,517,219 円増加したほか、材料費、経費等の増加により 108,700,605 円増加した。

収益の減少及び費用の増加により、経営指標に係る目標値に到達しないものが生じた。

### 【数値目標に対する点検・評価】

#### (令和6年度)

「鴨川市立国保病院経営強化プラン」(期間：令和6年度～令和9年度の4年間)に基づき実施した具体的な取組みは、以下のとおりである。

#### 1 医療機能や医療の質、連携の強化等に関する数値目標

##### (1) 医療機能に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
病床利用率 (%)	81.4	69.9	▲11.5	入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。
入院延患者数 (人)	20,805	17,848	▲2,957	入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。
外来延患者数 (人)	39,170	40,403	1,233	新規患者の受入れに努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。

入院患者1人1日当たり 収益(円)	38,951	35,953	▲2,998	地域包括ケア病床の看護師配置を10:1とし加算を算定した。
医科外来1人1日当たり 収益(円)	8,929	9,655	726	適正な診療報酬の算定、請求に努めた。
歯科外来1人1日当たり 収益(円)	7,787	7,888	101	適正な診療報酬の算定、請求に努めた。
救急応需率(%)	66.0	53.9	▲12.1	受入体制の整備を図り、救急患者の受入れに努めた。
救急車受入件数(件)	530	575	45	受入体制の整備を図り、救急患者の受入れに努めた。
休日・夜間・時間外受診 者数(人)	155	208	53	受入体制の整備を図り、救急患者の受入れに努めた。
訪問診療件数(件)	1,930	3,629	1,699	医師を確保するとともに、質的向上を含めて充実を図った。
訪問看護件数(件)	7,818	7,297	▲521	看護師の減、利用者の入院、死亡等により目標値を下回った。
リハビリ件数(件)	9,500	10,262	762	理学療法士を増員するとともに、リハビリ機能の充実を図った。

(2) 医療の質に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
在宅復帰率(%)	83.0	79.0	▲4.0	多職種が連携し、リハビリや在宅復帰への環境整備等を実施した。
患者満足度(%)	70.0	66.2	▲3.8	患者アンケートを実施し、その結果をもとに病院運営の改善に努めた。

(3) 連携の強化等に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
紹介患者受入数(人)	150	209	59	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図り、紹介患者の受入れに努めた。
紹介率(%)	10.0	17.5	7.5	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図った。
逆紹介率(%)	15.0	25.8	10.8	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図った。

(4) その他必要な数値目標

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
地域医療研修の受入件数 (人)	15	58	43	医学部学生等の実習の受入れを行った。
医療相談件数(件)	220	162	▲58	地域の医療機関・施設との連携強化に努めた。

2 経営指標に係る数値目標

(1) 収支改善に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
経常収支比率(%)	100.0	91.8	▲8.2	収益の確保、経費の節減に努めたものの目標値を下回った。
医業収支比率(%)	94.5	84.8	▲9.7	収益の確保、経費の節減に努めたものの目標値を下回った。
修正医業収支比率(%)	94.5	84.8	▲9.7	収益の確保、経費の節減に努めたものの目標値を下回った。
資金不足比率(%)	0.0	0.0	0.0	健全経営に努め資金不足は生じていない。

累積欠損金比率 (%)	0.0	7.4	7.4	経常損失を計上し、前年度繰越利益剰余金と差引きした結果、累積欠損金が生じた。
-------------	-----	-----	-----	--

(2) 収入確保に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
延入院患者数 (人)	20,805	17,848	▲2,957	入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。
延医科外来患者数 (人)	26,130	26,280	150	新規患者の受入に努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。
延歯科外来患者数 (人)	13,040	14,123	1,083	再診の患者に加え、新規患者、急患の受入に努めた。
入院患者1人1日当たり収益 (円)	38,951	35,953	▲2,998	地域包括ケア病床の看護師配置を10:1とし加算を算定した。
医科外来1人1日当たり収益 (円)	8,929	9,655	726	適正な診療報酬の算定、請求に努めた。
歯科外来1人1日当たり収益 (円)	7,787	7,888	101	適正な診療報酬の算定、請求に努めた。
1日当たり入院患者数 (人)	57	48.9	▲8.1	入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。
1日当たり医科外来患者数 (人)	125	90.1	▲34.9	新規患者の受入に努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。
病床利用率 (%)	81.4	69.9	▲11.5	入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。

(3) 経費削減に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
材料費対医業収益比率 (%)	6.1	9.2	3.1	費用の節減に努めたが、価格改定等の影響により比率が増加した。 医業収益の減により比率が増加した。
薬品費対医業収益比率 (%)	1.8	2.9	1.1	費用の節減に努めたが、価格改定等の影響により比率が増加した。 医業収益の減により比率が増加した。
委託料対医業収益比率 (%)	9.8	10.2	0.4	費用の節減に努めたが、委託業務の増により比率が増加した。 医業収益の減により比率が増加した。
職員給与費対医業収益比率 (%)	65.7	77.7	12.0	職員給与費の増及び医業収益の減により比率が増加した。
後発医薬品の使用割合 (%)	41.0	37.8	▲3.2	後発医薬品の使用に努めたが、供給不足により先発医薬品に切り替える場合があった。

(4) 経営の安定性に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
医師数 (人)	8	6	▲2	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
看護師数 (人)	42	38	▲4	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
その他医療従事者 (人)	27	25	▲2	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
臨床研修医受入数 (人)	14	12	▲2	旭中央病院及び千葉大学の研修医の受入を行った。

現金保有残高（千円）	415,275	571,615	156,340	現金保有残高は減少したが、目標値を上回った。
企業債残高（千円）	1,765,021	1,759,822	▲5,199	持続的に病院経営を行うために、適正な企業債の発行に努めた。

※医師・看護師・その他医療従事者の人数は年度末の人数。

[用語の説明]

- ・ 経常収支比率  
事業に係った全ての経費と事業で得た全ての収入の割合。  
 $\text{＜経常収益＞} \div \text{＜経常費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 医業収支比率  
医療の業務にかかった経費と医療の業務で得た収入の割合。  
 $\text{＜医業収益＞} \div \text{＜医業費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 修正医業収支比率  
医業収益からその他医業収益のうち他会計負担金を除いた修正医業収益の医業収益に占める割合。  
 $\text{＜修正医業収益＞} \div \text{＜医業費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 累積欠損金比率  
医業収益に対する累積欠損金の割合。  
 $\text{＜累積欠損金＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 病床利用率  
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標。  
 $\text{＜年延入院患者数＞} \div \text{＜年延病床数＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 材料費対医業収益比率  
医療の業務で得た収入に占める薬品や診療材料の割合。  
 $\text{＜材料費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 薬品費対医業収益比率  
医療の業務で得た収入に占める薬品費の割合。  
 $\text{＜薬品費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 委託料対医業収益比率  
医療の業務で得た収入に占める委託料の割合。  
 $\text{＜委託料＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 職員給与費対医業収益比率  
医療の業務で得た収入に占める職員給与の割合。  
 $\text{＜職員給与費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$